

報告

社会を変えよう！ソーシャル・アクション・リーダーがめざす世界 映画『権力を恐れず真実を—米国下院議員 バーバラ・リーの闘い』について

三浦 まり

柳澤 幾美

開催日: 2023年11月18日 (土)

第1部: 映画上映会『権力を恐れず真実を—米国下院議員 バーバラ・リーの闘い』

解説: 柳澤幾美 (名古屋外国語大学、南山大学他非常勤講師)

第2部: パネルディスカッション&グループワーク

登壇者: 中野裕子 (津市議会議員)

なめかわ友理 (水戸市議会議員)

濱田真里 (Stand by Women代表)

司会: 町田彩夏 (パリテ・アカデミー シニア・トレーナー)

参加者: 27人

2023年11月18日にグローバル・コンサーン研究所と一般社団法人パリテ・アカデミーが共催で、対話イベント「社会を変えよう！ソーシャル・アクション・リーダーがめざす世界」を開催した(助成: ソーシャル・ジャスティス基金)。参加者は第一部で見たバーバラ・リーの闘いぶりに勇気を得て、さらにパネル・ディスカッションを通じて、地方議員やアクティビストによる日本社会での活動実践についても知見を深めた。グループワークでは、登壇者にも交じってもらい、アクション・リーダーとして社会を変える意義や方法について議論した。全体的に大学生など若い人の参加が多く、お互いの活動からエンパワーされる機会となった。

以下では、当日映画の解説を行った 柳澤幾美さんより、本映画の意義について語っていただく。

三浦 まり (みうら まり)

(グローバル・コンサーン研究所・上智大学法学部)

『権力を恐れず真実を—米国下院議員 バーバラ・リーの闘い』は、現役の米国連邦下院議員バーバラ・リー（カリフォルニア州選出・民主党）が社会正義のために闘う姿を追ったドキュメンタリー映画である。

2001年9月11日同時多発テロ直後、武力行使権限を大統領に一任する「武力行使承認決議（AUMF）」案に、連邦議会ですら1人、下院議員のバーバラ・リーが反対票を投じた。米国内がテロへの報復一色に染まる中、リー議員はあえて武力行使の抑制を求め、大統領権限の際限なき拡大に断固として反対したのである。その直後から、殺害予告を含め、リー議員に対する脅迫電話が鳴り続けたという。しかし次第に彼女に賛同する人々が増えていき、映画では多くの有名人たちも彼女を支持する様子が描かれている。その後リー議員は毎年その決議を撤回する法案を提出、2019年に下院では大統領の権限は撤回された。しかし、上院ではいまだに撤回されておらず、現在でもこのAUMFは有効のままである。

映画では、リー議員の生い立ち、議員になった経緯も紹介される。リーは1946年7月、人種隔離政策があったテキサス州エルパソに生まれ、その後人種隔離のないカリフォルニア州に移住した。10代で結婚、2人の息子を産んだ後離婚、再婚するもDV被害に遭い、再度離婚を経験した。シングルマザーとして2人の子どもを育てながら、政府の援助を受け、ミルズ大学（心理学学士）、カリフォルニア大学バークレイ校（ソーシャルワーク修士）に学んだ。彼女が政治活動に興味を持つようになったのは、ミルズ大学在学中、アフリカ系女性として初めて大統領選挙に出馬したシャーリー・チザムの選挙活動を手伝ったときである。その後ロン・デルムス連邦下院議員のインターンになり、カリフォルニア州下院、上院議員を経て、ロン・デルムスの後釜として連邦下院議員となり、現在に至っている。

映画で紹介されているリー議員の政治活動は、人種差別、貧困、住宅、教育、移民、麻薬問題など、多岐に渡っている。地元選挙区だけではなく、他の選挙区にも足を運び、貧困クラスの人々の声にも耳を傾ける。日本の観客がおそらく最も戸惑うのは、マリファナの合法化の問題であろう。1980年代レーガン政権下で「麻薬との戦争」政策のもと、黒人の間で出回っている固形麻薬の使用が厳罰化され、特に黒人居住区が頻繁に麻薬取締捜査の対象となった。いわゆる「レイシャル・プロファイリング（特定の人種に絞って捜査の対象となること）」である。それは黒人の大量収監へと繋がっていた。そのような状況の中、リー議員は州法でのマリファナの合法化とマリファナ関連ビジネスへの黒人たちの公平な参入に取り組んだのである。ちなみに米国では現在、24州（医療目的では38州）でマリファナは合法化されている。

エイズ対策では、アフリカ諸国も視野に入れたグローバルな視点による問題解決に取り組んだ。そのためには共和党のブッシュ大統領(当時)とも手を組むなど、党派を越え、さまざまな分断を乗り越えてグローバルな社会正義を実現するために活動している。彼女は、地球規模で考えながら地域社会に根差した活動ができる「グローバル」な視点と、人種・ジェンダー・階級など複合的な権力関係が絡んだ問題を提起できる「インターセクショナル」な視点を合わせ持つ稀有な政治家である。また、リー議員は、若い世代の人々と共に公民権運動の聖地を訪れるなど、次世代の政治家を育てることに熱心である。

私は同時多発テロ直後のAUMFにリー議員が唯一反対票を投じたことに非常に感銘を受け

た。2020年末に、リー議員のドキュメンタリー映画が制作されたことを知り、日本でも上映したいと日本語字幕版の制作に奔走した。その結果、本映画は、2022年9月、あいち国際女性映画祭で上映され、230名の来場者があり、大きな反響を呼んだ。その後も各地での上映が続いている。

リー議員の政治活動は、今回のイベント参加者のとりわけ若い女性たちからは大いに共感を呼んだようである。上映後のパネルディスカッションでは、登壇した現役の議員から、自分がやってきたことに自信を持つことができたなど、自らの政治活動を振り返るきっかけになったことが示された。その後のワークショップでは、例えばそれぞれの参加者たちが、身近なことで自分が何かを変えた経験について話す機会が与えられた。映画の中では、リー議員が現地のハイスクールでチアリーダーになった経緯が語られている。当時は白人の女子学生しかチアリーダーになれなかったが、黒人地位向上協会（NAACP）の助けも借り、学生投票によって彼女がチアリーダーの座を見事獲得したことが描かれ、それが人生初の選挙勝利だとしている。今回の参加者たちにとっても、「個人的なことは政治的なことである」ことを認識する良い機会になったのではないだろうか。

柳澤 幾美（やなぎさわ いくみ）
（名古屋外国語大学、南山大学他非常勤講師）

＼社会を変えよう！／
**ソーシャル・アクション
・リーダーがめざす世界**

2023.11.18(土)
13:00-17:15




第1部 映画上映会 (1h45h)

権力を恐れず真実を

—米国下院議員バーバラ・リーの闘い—

アメリカ合衆国の連邦議会下院議員、バーバラ・リーの社会正義を求める闘いを追ったドキュメンタリーを、日本語字幕監修の中野大輔講師岡田泰弘さんの解説のもと鑑賞します。

あらすじ
ブラックパンサー党でのボランティアからキャリアを開始。米議会で2001年の同時多発テロに対する武力行使決議に唯一反対し、一躍有名になった民主党連邦下院議員、バーバラ・リー。本作では長年民主主義的な政治活動を先導する氏に焦点を当てる。



©ギンズバーグ監督提供

**第2部 パネルディスカッション
&グループワーク (2h15h)**

登壇者



中野裕子
津市議会議員



なめかわ友理
水戸市議会議員



湊田真里
Stand by Women代表

今の社会があるのは、先人たちがアクションを起こしてきたから。でもまだまだ十分ではありません。

この講座では、社会を動かすアクションを起こしてきたリーダーから学び、ジェンダー平等・平和など社会正義を追求するために、どうやって社会を変えていくのか、その方法についてみんなで話し合います。

司会



町田彩夏
パリテ・アカデミー
シニア・トレーナー

ご応募は
こちらから！
(先着順)



問合せ：parityacademy.event@gmail.com

申込期間：10月10日～11月15日＊プログラムは変更することがあります